

大だい仏ぶつ殿でん方ほう広くわう寺じは、後ご陽やう成ぜい院いん御ご宇う天てん正せい六りく年ねん、豊とよ臣とみ秀ひで吉よし公こうの御ご建けん立たなり。本ほん尊そんは廬い舎しゃ那な仏ぶつの坐ざ像ざう、御ご丈ぢやう六りく丈ぢやう三さん尺せき。仏ぶつ殿でん

は西せい向きやうにして、東とう西せい廿じやう七しち間かん南なん北ぺいは四し十じゆ五ご間かんなり。楼ろう門もんには金こん剛かう力りき士しの大だい像ざうを置おき、長ちやうは壹いつ丈ぢやう四し尺せきなり。門もんの内うちには高かう麗れい犬けんあり、金こん色しきにして長ちやう七しち尺せき。「これは豊とよ国こくにのやしろにありしといふ」廻くわい廊らうは南なん北ぺい百ひやく廿じやう間かん東とう西せい百ひやく間かんなり。堂だう前ぜんに建けんる石せき灯とう籠ろうには列れつ国こく諸しよ侯かうの名なを刻きむ、仏ぶつ殿でんの敷しき石せき又また正せい面めん石せき垣げんの大だい石せきには国こく々々出し所じよの名な或あるは諸しよ侯かうの紋もん所じよ等とうあり、廻くわい廊らうの外ぐわいには桜おう紅かう葉えつを交まじへて植うゑたり。慶けい長ちやう七しち年ねん十じゆ二に月げつ四し日にちには仏ぶつ殿でん回くわい祿りくす、同どう十じゆ五ご年ねん右う大だい臣しん秀ひで頼より公こうことくく再さい營えいある。寛かん文ぶん二に年ねん本ほん尊そん銅どう像ざうを改かへて木き像ざうとし給たまふ。太たい閤か秀ひで吉よし公こうの石せき塔たつ婆はは仏ぶつ殿でんの南なんにあり、豊とよ国こくに崩くづれて後ごこれを營えいしといふ。塔たつ前ぜんの石せき灯とう籠ろうには慶けい長ちやう十じゆ年ねん九く月げつとあり。

撞つ鐘かね堂たうは南なん廻くわい廊らうの外ぐわいにあり、四し間かん四し方ぱうにして柱ちゆうの数かずは十じゆ二に本ほんなり。鐘かねの高かうさ壹いつ丈ぢやう四し尺せき、指さしわたしは九く尺せき二に寸すん、厚あつさ壹いつ尺せき。